



井上 弓子

いのうえ・ゆみこ

みやぎ・やまがた女性交流機構 会長

高島電機代表取締役会長、山形商工会議所女性会会長。2003年に祖父が創業した高島電機の社長に就任し、4代目として経営に携わる一方、同機構会長として山形県の働く女性の意識改革と地位の向上に努める。東日本大震災以降、復興支援にも尽力

地域で活躍する女性のネットワークを生かして 支援活動に尽力

宮城・山形両県のさまざまな分野で活躍する女性を中心となって、2009年に設立された「みやぎ・やまがた女性交流機構」。両県の活性化を目指して連携をとってきたが、東日本大震災以降、交流を通じて築かれた幅広い人脈やネットワークを生かして、被災者の視点に立った復興支援活動を展開している。

働く女性たちの意識を高めて 地域経済を元気に

みやぎ・やまがた女性交流機構は、宮城県、山形県、仙台市、山形市、宮城県商工会議所連合会、山形県商工会議所連合会、東北経済連合会で構成する「宮城・山形地域連携推進会議（現・宮城・山形未来創造会議）」が開催した「交

流会」として活動をスタートし、その後、民間団体として独立した。人口減少が加速する中、意欲ある女性の活躍をサポートし、業種を超えたネットワークを築いて両県の活性化を図ろうと、毎年2月に交流会を開催してさまざまな課題に取り組んできた。同機構の設立時から会長を務めてきたのが、山形市に本社を置く高島電機会長で、山形商工会議所女性会の会長も務める井上弓子さんだ。井上さんは当初の目的をこう説明する。「意外かもしれませんが、山形県の女性（25〜44歳）の就業率は全国2位（2015年国勢調査より）と高いんです。それはお父さんの収入だけでは暮らしていけないから。それで家計を助けるために、フルタイムで働く女性が非常に多い。にもかかわらず、自分の仕事を「補助的」と捉えていて、社会で活躍しようという意識は高くありませんでした。それを女性が主体となって引き上げ、地域経済を元気にしようというのが機構の狙いでした」

交流会で話し合ってきた課題の一つに、女性が働くための会社の環境整備があった。そこで、地域で活躍する女性起業家やNPO法人代表、ボランティア活動に携わる人などを招いて話を聞き、交流する中から、具体的なヒントやアイデアを模索するなどしていた。そうして11年、5回目の交流会が無事終わった翌月、東日本大震災が起こった。

日ごろ培ったネットワークを駆使して支援活動を展開

震災直後は、首都圏から東北に向かう鉄道や高速道路がストップし、なかなか復旧のめどが立たなかった。3月といえば年度末である。高島電機では、電気工事会社に納品する材料の輸送が滞り、てんてこ舞いだった。その一方で井上さんのところには、交流のある女性たちから盛んに電話が掛かってきた。山形は幸い大きな被害を受けず、東京から宮城方面へ向かう人や物資の拠点となっていたため、「私にも何かできることはないか？」と問い合わせてきたのだ。井上さんは日ごろ培ったネットワークを生かし、すぐに支援活動に乗り出した。

例えば、山形の機構の仲間たちは被災地の人に温かいものを食べてもらおうと、手づくり料理を取りまとめて、宮城の同機構メンバーに届けに行った。また、別のメンバーは気仙沼や南三陸、石巻など宮城県北部沿岸地域に赴き、仮設住宅に住む被災者向けにコミュニテイ

特集

東日本大震災—あれから9年

女性経営者たちの復興

2011年3月11日に起きた東日本大震災から9年が過ぎた。とはいえ、東北各地では今もなお、復興へ向けた道のりは遠いと言わざるを得ない状態が続いている。NPO、今号は震災直後から復興へ向けてさまざまな事業を通して地域とともに頑張っている東北各地の女性経営者たちの取り組みを追った。